

**HIV抗体検査場面で体験したこと(自由記述)**

ゲイであることを告げると、「あなたハイリスクだわ」とあきれ果てながら言われ、「ハッテン場にも行くの?」と質問された。わずかに知っているゲイ関係の知識をもとに、ゲイのことを相当に危険と思っている態度だった。

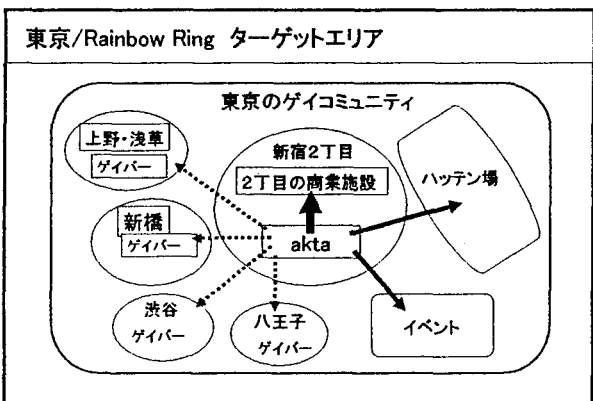
3度目の検査の時、「そんな遊びしちゃダメじゃない」と言われた。自分の健康の確認に来ているのに、私生活について言われたくないと思った。それ以降、検査に行っていない。

「検査は税金なので、頻繁に何度も検査に来ないように」と言われた。

電話受付の人に「いかがわしい行為をしてからどの位たってる?」と聞かれた。大声で他の職員に「この人HIVの検査しに来たんだって。〇階の部屋だったよね?」と言われ、みんなにじろじろ見られた。

廊下で座って順番を待っていたとき、検査室での会話が筒抜けで驚いた。告知を受けている人の名前が聞こえてしまった。

他の人の検査結果が丸見えだった。友達と一緒に行ったので連番で、友達の結果も見えてしまった。



**HIV抗体検査場面で体験したこと(自由記述)**

物静かな感じの女性が担当で、安心して検査ができました。こちらが緊張しないように、色々な雑談してくれたのを覚えています。

ゲイと言っても何ら変わることもなく、親切にいただきました。

ゲイの対応に慣れているようで、タチやネコといった単語が使われた時は恥ずかしかったけど、話しやすかった。

ゲイフレンドリーではあるんだけど、自分がウケであることが前提で話がされた。事実だけど(笑)。

保健婦のおばちゃんから「あなたはそのお、、、タチですか?」と聞かれた時には笑いそうになりました(笑)。

**HIV抗体検査場面で体験したこと(自由記述)**

「あなた真面目そうな顔して経験多いのね」と女性の医師や看護師に言われたことがある。こいつらには、絶対俺たちの気持ちは理解できな感じ、何も話す必要はないと思った。

保健師から「ボーナス出た時期だから風俗でも行ってうつされたんでしょ?」と言われた。

20回目の検査の時に回数が多さに驚かされてしまったようで、さらに「ハッテン場(「そういう」ところという表現をされた)ばかり言っていたら...」みたいなことを言われた。そんなの百も承知なんだけれど、それ以降、検査に行っていない。

ゲイであるとわかると、医師が少し戸惑っていた。口調や言葉遣いが変わり、「またかよ」という否定的な雰囲気を受けた。

結果を聞きに行ったらみんなと別室に案内され、しかも案内の人が急に電話をかけた。その上、担当の医師から「あんた死ぬよ」と脅された。

**パンフレットの主旨・訴えて欲しいこと(自由記述)**

もっと同性愛について書かれているページが多いもの。異性愛者がそれを見ても同性愛を軽蔑しないような説明がきちんと書かれている内容。

異性愛者・同性愛者の区別なく役に立つもの。「セックスは異性間でやるもの」という前提に立たず、異性間のセックスと同性間のセックスが並列に扱われているもの。同性愛者の存在が当然のものとして肯定的に扱われているもの。

これまでに見たことのあるパンフレット、広告類はすべて、異性間の性的接触についてしか触れておらず、自分が性的マイノリティに属していることを強く意識させられる。異性愛だけでなく同性愛者にも触れて、なおかつ同性愛者に対する偏見のないものが欲しい。

ゲイの病気じゃない、普通の病気だと言うこと、それを一般人に判るようにして欲しい。病気の予防啓発も大切だけど、かかってからのケアは周囲の視線を無視してできない。かかったらどうなるのか? それをもっと強く訴える(恐怖PR)的なものが有ってもいい。

## 外国籍 HIV 陽性者療養支援ハンドブック

### と在日外国人のための新しい HIV 対策

NGOによる個別施策層の支援とその評価に関する研究班

慶応大学文学部 樽井 正義 港町診療所 沢田 貴志

#### 1. 今なぜ在日外国人か

報告数の2割が外国人、治療継続の困難、高い死亡率

→公衆衛生的な課題と人道的な課題

#### 2. 世界のエイズ対策の新しい流れ

世界エイズ結核マラリア対策基金と“3 by 5”が産んだもの

開発途上国での希望と先進国側の支援の責任

ACCESS for ALL 世界エイズ会議 2004年 Bangkok

#### 3. 日本での外国人を対象としたエイズ対策 予防介入とケアの向上

外国人 HIV 陽性者支援で直面する問題

a. 言葉が通じない

b. 医療費の支払いに困難

c. 支援環境・生活背景がわからない

d. 母国の医療事情がわからない

⇒外国籍HIV陽性者支援ハンドブックの活用

#### 4. 医療へのアクセスを向上させる現実的な方策

医療通訳の活用の促進 通訳への研修

活用できる医療制度の把握 MSWへの研修

NPOなどの社会資源の活用

帰国希望者への現地情報の提供

⇒患者感染者の生活の質の向上が予防の取り組みに寄与

## 【資料1】

### 「医療相談員のための外国籍 HIV 陽性者療養支援ハンドブック」目次

1. 在日外国人の HIV をめぐる状況
2. 外国人 HIV 陽性者支援で直面する問題
3. 支援のための道具箱
4. 母国の医療事情
5. 資料集
  - a. 人権ガイドライン
  - b. 医療通訳の心構え（事例）
  - c. 通訳派遣団体リスト
  - d. 関連法規

## 【資料2】

### 医療相談担当者と通訳のための在日外国人 HIV 陽性者支援研修（プログラム例）

- |                          |      |
|--------------------------|------|
| 1. 在日外国人の HIV の動向        | 20 分 |
| 2. 母国の医療事情 ～2002 年以降の流れ  | 40 分 |
| 3. 医療通訳の役割と課題            | 30 分 |
| 4. 日本で使える医療制度 ～事例検討をふまえて | 60 分 |
| 5. 帰国する外国人の支援の実際         | 20 分 |

## 外国籍HIV陽性者療養支援 ハンドブックと 在日外国人のための新しいHIV対策

NGOによる個別施策層の支援と  
その評価に関する研究班  
慶応大学文学部 樽井 正義  
港町診療所 沢田 貴志

## 国籍別累積HIV感染者/AIDS 患者報告数(Apr.2006)

	HIV報告数	AIDS報告数
日本国籍	7,536(79.0%)	3,715(81.0%)
外国籍	2,007(21.0%)	870(19.0%)

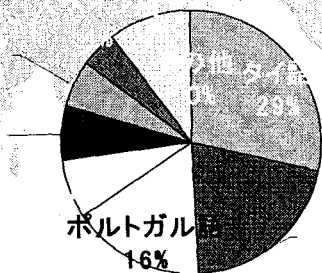
## なぜ今外国人へのケースワーク が重要か

- 累積報告数の約2割が外国人
- 高い中断率
- 重症化しての受診が多い
- 高い死亡率(2年間に10/39死亡:T国大使館)  
→未払い医療費が多い  
→診療体制への負荷
- →公衆衛生的な課題と倫理的な課題

表2 外国人AIDS患者の出身地  
(2003年末までの累計)

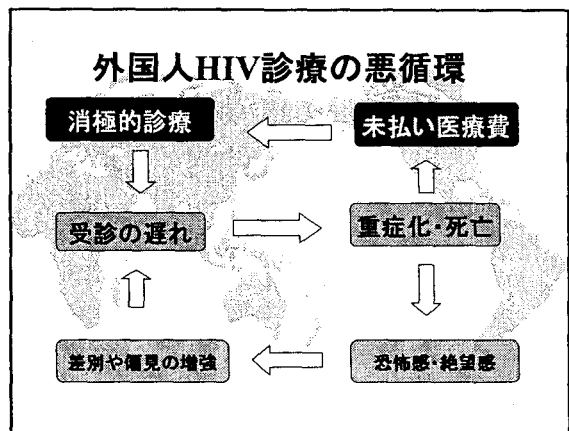
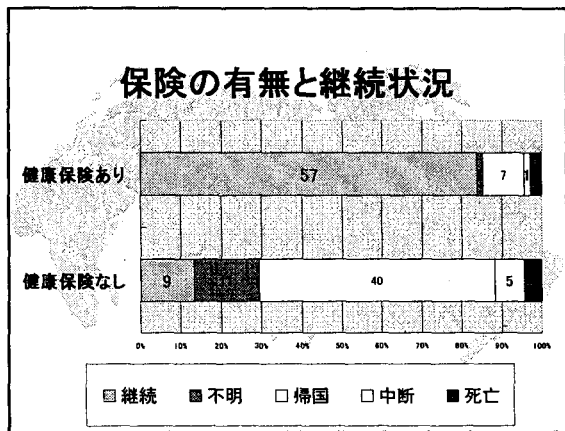
地域名	
東南アジア	330(46.2%)
ラテンアメリカ	154(21.5%)
サハラ以南アフリカ	71(9.9%)
東アジア	29(4.1%)
南アジア	24(3.4%)
北米	19(2.7%)
西欧	8(1.1%)
不明・その他	80(11.2%)

## 母国の公用語(n=136)



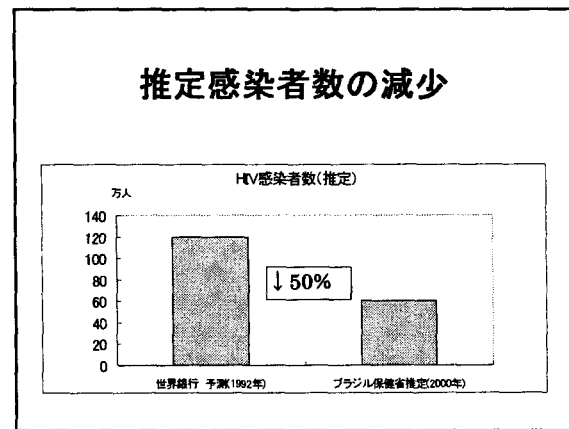
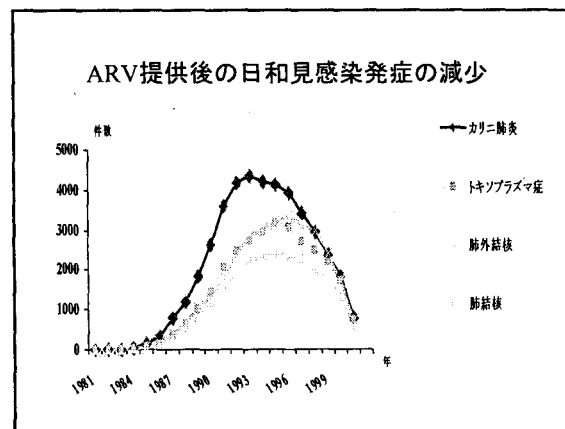
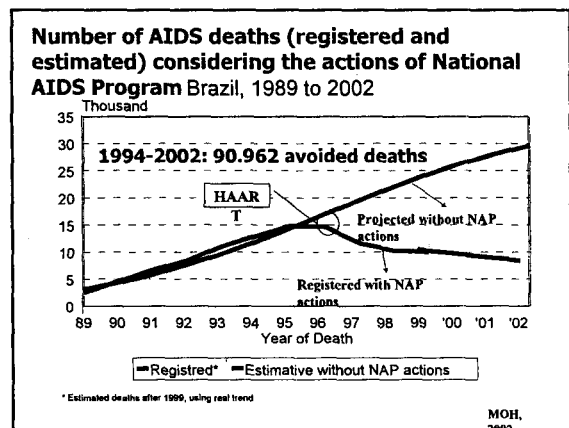
## 出身地域別初診時CD4細胞数 (n=128)

地域	人数	CD4中央値
北米・欧州・豪州	12	473
東アジア	16	225
中南米	27	241
アフリカ	18	118
東南・南アジア	55	84



### HIV報告数とAIDS報告数の割合

	外国人 HIV	外国人 AIDS	HIV/AIDS	日本人 HIV/AIDS
1994-96	389	144	2.70	1.44
1997-99	360	208	1.73	1.72
2000-02	283	212	1.33	1.87
2003-05	274	206	1.33	2.24



## ブラジルのエイズ対策が 物語るもの

- 適切な医療の提供と感染者の生活の質の向上がエイズ対策を大きく前進させる
- 治療とケアにアクセスできない人々を作らないことが効果を広げる

## タイのAccess To Careプログラム

ARV (抗HIV薬)開始の適応と認められた人へ無料でARVを提供する。

～2003年～2004年の間にタイ全国で5万人へ～

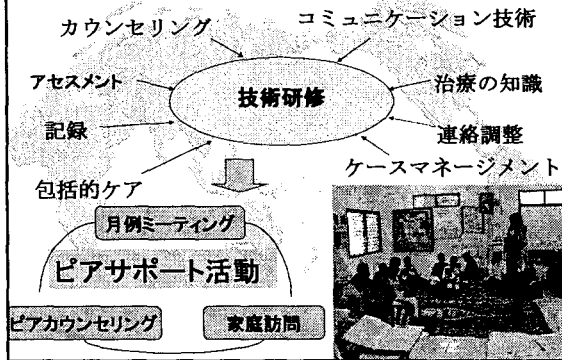
### 適応基準

- ARV (抗HIV薬)を開始する身体的状態と判断された人 (免疫指標数 (CD4数)の低下・AIDSの発症)
- 治療を正しく理解し、飲む意志のある人など・・・

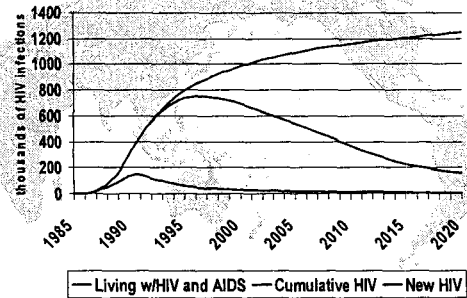
### 対応

- 治療開始前からのカウンセリング・毎月の受診
- 定期的に免疫指標数を測定
- プログラム下では今のところ無料でARVを提供されている。

## HIV陽性者の互助活動



## HIV Infection in Thailand



## エイズ対策新時代 2002年 世界エイズ結核マラリア対策基金 2003年 WHOが“3 by 5”を推進

- 開発途上国出身のHIV陽性者に生存の希望を与える。
- ⇒差別と偏見を軽減し予防の促進
- ケア・サポートの重要性を明確化
- 先進国側の支援の責任
- ⇒日本国内での治療責任も求められる

## 外国人HIV陽性者支援で直面する問題

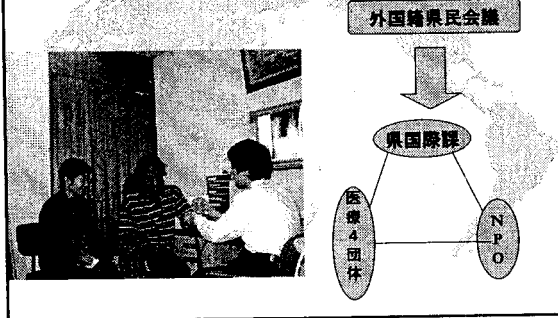
- a.言葉が通じない
- b.医療費の支払いに困難
- c.支援環境・生活背景がわからない
- d.母国の医療事情がわからない

支援のための工具箱  
鍵を握るMSW

## 医療通訳を得るために

- 1) 病院で確保している事例
- 2) 自治体の取り組み
- 3) NGOの取り組み → 通訳派遣団体リスト
- ■ 通訳体制確立のポイント
  - ・ 研修による技能の向上
  - ・ 謝金の払える財政基盤
  - ・ 責任範囲の明確化
  - ・ コーディネーター

## 医療通訳システム化の取り組み 神奈川県における医療通訳派遣事業



## 医療費

- 外国人の医療相談に関わる上で熟知しておくことが求められる制度。
- 1. 結核予防法34条、35条
  2. 精神保健法29条
  3. 感染症予防法19条、37条、46条
  4. 母子保健法20条
  5. 児童福祉法20条、22条
  6. 身体障害者福祉法19条
  7. 行旅病人及び行旅死亡人取扱法
  8. 地方自治体の行う外国人未払い医療費補填事業

## 在日タイ人AIDS患者の死亡率 タイ王国大使館への帰国相談事例 Jan 04- Dec 05

	AIDS報告数	死亡(率)
合計	39	10 (25.6%)
未払い補填事業のある県 (東京、神奈川、群馬)	17	3 (17.6%)
補填が殆ど行われない県 (千葉、栃木、埼玉)	22	7 (31.8%)

## 行旅病人及び行旅死亡人取り扱い法

- 第一条  
此の法律において行旅病人と称するは歩行に堪へざる行旅中の病人にして療養の途を有せず且救護者なき者を謂ひ行旅死亡人と称するは行旅中死亡し引取者なき者を謂ふ
- 第二条  
旅中病人は其の所在地市町村之を救護すへし

## 未払い医療費補填制度

- 緊急医療を受けた外国人
- 1年間再三の支払請求を行うも支払いが困難と認められる場合
- 保険診療として算定した診療額一回収額を自治体などが医療機関に補填

1993.6.17 群馬県で開始。以後、東京・神奈川県などの地方自治体で実施

## 外国人相談の社会資源(関東)

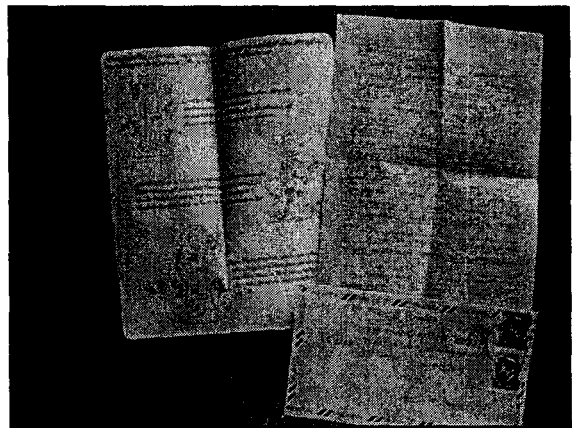
- **タイ:**  
 アーユス: 通訳派遣 03-3820-5831  
 シェア: 電話相談・医療事情 03-5807-7581  
 サーラー: 女性 045-901-3527(一般には非公開)  
 AMDA: 母国相談・通訳 03-5285-8088
- **ラテンアメリカ:**
- **クリアチーボス 相談・サポート** 045-360-2094 045-451-1211(月)
- **アフリカ:**  
 アフリカ日本協議会 情報提供 03-3834-6902  
 多言語  
 国際交流協会(茨城・栃木・群馬・埼玉・長野)  
 MICかながわ 通訳派遣  
 西新宿保健センター 03-3369-7111

## 帰国するタイ人AIDS患者の支援

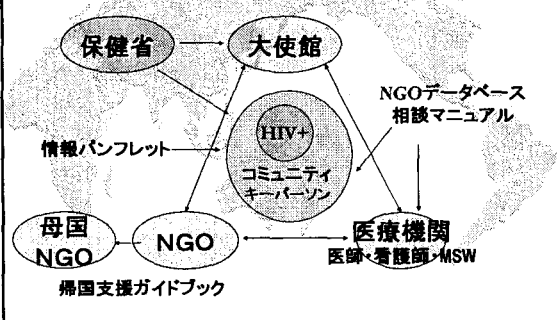
- |                       |            |
|-----------------------|------------|
| ● <b>必要なプロセス</b>      | <b>連携先</b> |
| ● 1. 旅券の確認・再発行        | タイ大使館      |
| ● 2. 帰国後医療の確保         | NGO→病院     |
| ● 3. 搬送手段の確保          | 航空会社       |
| ● 4. 出国手続き            | 入国管理局      |
| ● 5. 重症:出迎えの手配        | 社会福祉省      |
| ● 6. ARV開始の場合継続可能な選択を |            |

## NGO/大使館に相談のあったタイ人AIDS患者の転帰 2004年(入院先からの紹介を除く)

合併症	初診CD4	転帰
口腔カンジダ、皮膚真菌症	10	HAART治療中
皮膚真菌症、トキソプラズマ症	9	HAART治療中
肺炎、敗血症	13	HAART治療中
帯状疱疹	42	HAART治療中
肺結核	12	結核治療中
口腔カンジダ	34	帰国後受診
肺結核	24	結核治療中



## 在日外国人のHIVに関わる ネットワークの構築



## 参考文献

- 沢田貴志: 外国人HIV感染者の治療環境と支援. Progress in Medicine. 23:2313-2316, 2003
- 沢田貴志, 奥村順子, 若井晋ほか: 在日外国人HIV診療についての研究. 厚労科研費HIV感染症の医療体制に関する研究班. 総合研究報告書, pp183-188, 2003
- 在日外国人HIV医療についての研究グループ: 医療ソーシャルワーカーのための外国人HIV診療ガイドライン. HIV感染症の医療体制に関する研究班. 2003
- 星野齊之, 沢田貴志. 在日外国人の結核. 資料と展望. 38:1-15; 2001
- 山村淳平. 超過滞在外国人における結核症例の検討. 結核. 77: 671-678; 2002



帰国する在日アフリカ人HIV陽性者と  
ケア提供者のための

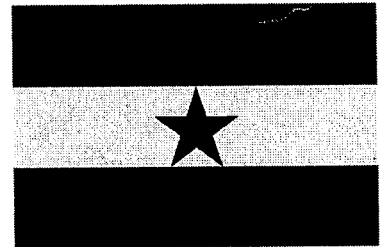
# ガイドブック

サハラ以南アフリカの  
HIV/AIDSケア・治療の現状



**Federal  
Republic of  
Nigeria**

**Republic of  
Ghana**



## 2. ナイジェリア・ガーナ編 (2005年度版)



## 目次 Contents

- |                               |   |
|-------------------------------|---|
| 1. はじめに：「ナイジェリア・ガーナ編」の発行に当たって | 2 |
| 2. 本ガイドの趣旨と使い方                | 4 |

### ナイジェリア連邦共和国 Federal Republic of Nigeria

- |                              |    |
|------------------------------|----|
| 1. 国のようす                     | 5  |
| 2. HIV/AIDS の状況              | 6  |
| 3. 日本への移住労働者の動向              | 9  |
| 4. HIV/AIDS への取り組み概要         | 10 |
| 5. 治療およびケア・サポートの全国的動向        | 13 |
| 6. 地方別のケア・サポート、治療の状況         | 17 |
| 7. 国境を越えたりファレンス体制の可能性        | 24 |
| コラム1：ナイジェリアのゲイ・MSM 運動        | 26 |
| コラム2：ナイジェリアのリプロダクティブ・ライツ&ヘルス | 26 |

### ガーナ共和国 Republic of Ghana

- |                       |    |
|-----------------------|----|
| 1. 国のようす              | 28 |
| 2. HIV/AIDS の状況       | 29 |
| 3. 日本への移住労働者の動向       | 29 |
| 4. HIV/AIDS への取り組み概要  | 30 |
| 5. 治療へのアクセス           | 32 |
| 6. ケア・サポート組織概要        | 32 |
| 7. 国境を越えたりファレンスの方向性   | 34 |
| おわりに                  | 35 |
| 参考文献・本書作成にご協力いただいた皆さま | 35 |